

福井県流域環境ネットワーク協議会

設立趣旨書（案）

福井県ではコウノトリを自然再生のシンボルとして、平成27年10月3日、越前市白山地区において、本県で50年ぶりに誕生したコウノトリが放鳥されました。また、これまでも、兵庫県豊岡市において放鳥されたコウノトリやその子孫が、越前市や福井市、坂井市、若狭町、小浜市等へ頻繁に飛来しているところです。

田園生態系の食物連鎖の頂点に立つコウノトリが生息できる環境は、多様な生物が生息する豊かな自然環境であり、人間にとっても安全で安心な環境であると言えます。

県内においては、行政機関、地方公共団体、NPO、専門家等の個人や団体が、九頭竜川流域の豊かな自然環境の保全・再生・創出を目的に、様々な活動を行っていますが、流域全体で自然環境の保全や再生を推進するには、これらの関係機関等が連携して、効率的・効果的に実施していく必要があります。

そこで、人とコウノトリ等の水辺の生き物が共生できる持続可能な地域づくりのため、自然再生団体や行政等が連携し、河道内の河川環境とその周辺地域の田んぼなどにおいて、九頭竜川流域が一体となって総合的な自然再生の推進を図ることを目的として、「福井県流域環境ネットワーク協議会」を設立するものです。